

# カラダキレイの有用性 事例エビデンス 皮膚疾患軽減評価試験

## 要旨

カラダキレイは、洗浄・保湿・保護機能を一度にできる洗浄型保湿剤である。これまで、医療・介護現場では入浴時の洗剤による洗浄、その後の保湿剤の塗布、さらに皮膚の脆弱な場合は保護剤の塗布がおこなわれてきた。このような現場で働く職員や患者・利用者の精神的・肉体的な負担を軽減するために、適切な洗浄・保湿剤の開発が望まれてきた。「カラダキレイ」は、洗浄・保湿・保護機能を一度にできる洗浄型保湿剤である。高齢者は、皮膚のバリア機能が低下し、皮脂欠乏症や痒みを伴う皮脂欠乏性湿疹を発症することが多い。今回、様々な症例に対して、「カラダキレイ」を使用し、介護負担の軽減および皮膚疾患の改善の観点から検証をおこなった。その結果、介護負担の軽減に加え、各種の疾患においてその有用性が認められた。

## 結果

### 1. 「カラダキレイ」による清拭・洗浄の有用性の検討

血圧が不安定であったり発熱があったりして、入浴ができない人に対して、ベッド上で「カラダキレイ」による清拭を実施したところ、介護側から洗浄・保湿が同時にできるので介護に要する時間が短縮された。また、スプレーして拭き取るだけなので介護に要する労力が軽減したとの意見が得られた。また、清拭される側にとっても清拭する側にとっても、「カラダキレイ」に含まれている匂いがいいとの評価を得た。「カラダキレイ」を従来から使用してきた陰部洗浄材に代えて、使用を試みたところ、計量キャップなどで計ることなく、プッシュして薄める方式なので、使用方法が簡単であったとの評価を得た。

### 2. 皮膚トラブルを有する高齢者に対する「カラダキレイ」の有用性の検討

#### 1) 洗浄力

指の切創で血糊が付着し、傷の性状が不明なことがある。カラダキレイによって傷口を洗浄し結果、容易に血糊を除去することができ、傷口の形状を明らかにすることができた（資料1）。

#### 1) 皮脂欠乏症

手背、足背に生じた皮脂欠乏症の症状が、薬剤を塗布することなく、カラダキレイの塗布によって改善された（資料2－9）。

## 2) 皮脂欠乏性湿疹

上腕、下腿に生じた皮脂欠乏性湿疹の症状が、抗生物質・副腎皮質ホルモン配合剤、抗ヒスタミン薬投与とともに、カラダキレイの塗布によって改善された（資料7-13）。

## 3) 老人性皮膚掻痒症

皮脂欠乏症や皮脂欠乏性湿疹のなかで、特に掻痒感が強く、自己掻破のあるものを特に老人性皮膚掻痒症としてまとめた。カラダキレイのみでも掻痒を軽減することができたが、外用抗ヒスタミン剤を塗布したり、同時に抗ヒスタミン薬の内服を要した症例もあった。皮膚症状そのものは副腎皮質ホルモン剤を使用することなく、改善させることができた（資料14-17）。

## 4) その他の湿疹

頸部湿疹、腹部湿疹、耳介亀裂性湿疹、化膿を伴う手背湿疹、臍周囲炎について、通常の抗生物質・副腎皮質ホルモン配合剤などによる治療に加えて、軟膏塗布前にカラダキレイによる洗浄をおこなった。特に皮膚トラブルなく短期間で湿疹の改善が認められた（資料18-22）。

## 5) 膿痂疹

前腕や殿部に生じた膿痂疹に対して、抗生物質・副腎皮質ホルモン配合剤などの治療をおこないながら、軟膏塗布前にカラダキレイによる洗浄をおこなった。膿痂疹の治癒期間が短縮されたとの印象はないが、特に皮膚トラブルなく膿痂疹の改善が認められた（資料23-24）。

## 5. 考察

高齢者は皮膚のバリア機能が低下し、様々な皮膚疾患を発症することが多い。皮脂欠乏症（乾皮症）は放置すると、皮脂欠乏性湿疹の発症につながるので、日頃からのスキンケアが望まれる。このたび、カラダキレイを洗浄保湿剤として、様々な皮膚疾患症例に適応したところ、疾患の改善を見ることができた。これにはカラダキレイの有する洗浄機能、保湿機能、保護作用が大きく関与しているものと思われる。カラダキレイは、洗浄・保湿・保護機能を一度にできる洗浄型保湿剤であるので、介護者にとっても介護時間・介護労力の軽減につながり、この点でも有用性が認められたといえる。

医師 井上 貴央



井上 貴央 医師 プロフィール

鳥取大学名誉教授

医学博士

現：介護老人保健施設あやめ 施設長

資料.1

血糊の洗浄

指をけがして血糊附着。  
カラダキレイによる洗浄をした。  
血糊を簡単に除去することができ  
創口の形が明らかになった。



洗浄前



洗浄後

資料.2

年齢	性別	病名	
88歳	男性	皮脂欠乏症	
症状	使用回数	使用日数	薬・カバーなど
下腿に肌荒れ	1日1回	14日	レッグカバー



初日



14日後

資料 .3

年齢	性別	病名	
88 歳	男性	皮脂欠乏症	
症状	使用回数	使用日数	薬・カバーなど
下腿に肌荒れ	1 日 1 回	14 日	レッグカバー



初日



14 日後

資料 .4

年齢	性別	病名	
88 歳	男性	皮脂欠乏症	
症状	使用回数	使用日数	薬・カバーなど
手の手背に肌荒れ	1 日 1 回	7 日	使用なし / カラダキレイのみ



初日



7 日後

資料 .5

年齢	性別	病名	
88 歳	男性	皮脂欠乏症	
症状	使用回数	使用日数	薬・カバーなど
手の手背に肌荒れ	1 日 1 回	7 日	使用なし / カラダキレイのみ



初日



7 日後

資料 .6

年齢	性別	病名	
94 歳	女性	皮下出血と皮脂欠乏症	
症状	使用回数	使用日数	薬・カバーなど
左下腿に肌荒れ	1 日 1 回	7 日	レッグカバー



初日



7 日後

資料 .7

年齢	性別	病名	
89 歳	女性	皮脂欠乏性湿疹	
症状	使用回数	使用日数	薬・カバーなど
右上腕に肌荒れ	1 日 1 回	7 日	抗生物質・副腎皮質ホルモン配合剤の塗布を 3 日間



初日



7 日後

資料 .8

年齢	性別	病名	
79 歳	女性	皮脂欠乏性湿疹	
症状	使用回数	使用日数	薬・カバーなど
両下腿前面に痒みを伴う肌荒れ	1 日 1 回	20 日	レッグカバー



初日



20 日後

資料.9

年齢	性別	病名	
89 歳	女性	皮脂欠乏性湿疹	
症状	使用回数	使用日数	薬・カバーなど
左下腿前面・掻痒を伴う湿疹	1 日 1 回	10 日	抗生物質・副腎皮質ホルモン配合剤の塗布を 1 日間 / レッグカバー



初日



10 日後

資料.10

年齢	性別	病名	
89 歳	女性	皮脂欠乏性湿疹	
症状	使用回数	使用日数	薬・カバーなど
右下腿前面・掻痒を伴う湿疹	1 日 1 回	10 日	抗生物質・副腎皮質ホルモン配合剤の塗布を 1 日間



初日



10 日後

資料 .11

年齢	性別	病名	
92 歳	女性	皮脂欠乏性湿疹	
症状	使用回数	使用日数	薬・カバーなど
両側上腕にひっかき傷を伴う肌荒れ	1 日 1 回	9 日	抗生物質・副腎皮質ホルモン配合剤を塗布



初日



9 日後

資料 .12

年齢	性別	病名	
92 歳	女性	皮脂欠乏性湿疹	
症状	使用回数	使用日数	薬・カバーなど
左下腿に痒みを伴う肌荒れ	1 日 1 回	7 日	抗生物質・副腎皮質ホルモン配合剤の塗布 3 日間 / レッグカバー使用



初日



7 日後

資料.13

年齢	性別	病名	
90 歳	女性	皮脂欠乏性湿疹	
症状	使用回数	使用日数	薬・カバーなど
両下腿に痒みを伴う肌荒れ	1 日 1 回	15 日	抗ヒスタミン薬投与を 2 日間



初日



15 日後

資料.14

年齢	性別	病名	
84 歳	男性	老人性皮膚掻痒症	
症状	使用回数	使用日数	薬・カバーなど
胸背部に痒みを伴う肌荒れ	1 日 1 回	9 日	外用抗ヒスタミン剤を塗布 同時に抗ヒスタミン薬を内服



初日



9 日後

資料.15

年齢	性別	病名	
84 歳	男性	老人性皮膚掻痒症	
症状	使用回数	使用日数	薬・カバーなど
胸右上腕後面に痒みを伴う肌荒れ	1 日 1 回	9 日	外用抗ヒスタミン剤を塗布 同時に抗ヒスタミン薬を内服



初日



9 日後

資料.16

年齢	性別	病名	
96 歳	女性	老人性皮膚掻痒症	
症状	使用回数	使用日数	薬・カバーなど
痒み伴う背部に肌荒れ	1 日 1 回	7 日	外用抗ヒスタミン剤を塗布し 抗ヒスタミン薬を服用



初日



7 日後

資料.17

年齢	性別	病名	
90 歳	女性	老人性皮膚掻痒症	
症状	使用回数	使用日数	薬・カバーなど
背部に痒みを伴う肌荒れ	1 日 1 回	7 日	外用抗ヒスタミン剤を使用



初日



7 日後

資料.18

年齢	性別	病名	
89 歳	女性	頸部湿疹	
症状	使用回数	使用日数	薬・カバーなど
左首に肌荒れ	1 日 1 回	3 日	抗生物質・副腎皮質ホルモン配合剤を 3 日間塗布



初日



3 日後

資料.19

年齢	性別	病名	
92歳	女性	腹部湿疹	
症状	使用回数	使用日数	薬・カバーなど
両側上腕 腹部ひっかき傷を伴う肌荒れ	1日1回	9日	抗生物質・副腎皮質ホルモン配合剤を塗布



初日



9日後

資料.20

年齢	性別	病名	
92歳	女性	化膿を伴う湿疹	
症状	使用回数	使用日数	薬・カバーなど
左手背に痒みを伴う肌荒れひっかき傷により一部化膿	1日1回	24日	抗生物質・副腎皮質ホルモン配合剤の塗布を3日間/ハンドカバー



初日



15日後



24日後

資料 .21

年齢	性別	病名	
92 歳	男性	亀裂性湿疹	
症状	使用回数	使用日数	薬・カバーなど
右耳介上部に亀裂を伴う肌荒れ	1 日 1 回	7 日	副腎皮質ホルモン剤の塗布



初日



7 日後

資料 .22

年齢	性別	病名	
85 歳	男性	臍周囲炎	
症状	使用回数	使用日数	薬・カバーなど
臍まわりの肌荒れ 悪臭	1 日 1 回	3 日	抗生物質・副腎皮質ホルモン 配合剤の塗布



初日



3 日後

資料 .23

年齢	性別	病名	
94 歳	女性	膿痂疹	
症状	使用回数	使用日数	薬・カバーなど
左殿部の肌荒れ	1 日 1 回	8 日	抗生物質・副腎皮質ホルモン配合剤を 3 日間 / その後抗生物質軟膏を塗布



初日



8 日後

資料 .24

年齢	性別	病名	
93 歳	女性	膿痂疹	
症状	使用回数	使用日数	薬・カバーなど
右前腕に肌荒れ	1 日 1 回	6 日	抗生物質の塗布と内服



初日



6 日後